

「府立高等学校特色づくり・再編整備計画」にもとづく  
高校改革の進捗並びに検証状況について

概 要 版

平成 20 年 1 月

大阪府教育委員会事務局 教育振興室 高校改革課

# 「府立高等学校特色づくり・再編整備計画」にもとづく

## 高校改革の進捗並びに検証状況について <概要>

### 特色づくり

～ 社会の変化 ～

国際化、情報化、少子高齢化等、多様な学習ニーズ

「入れる学校」から「入りたい学校」へ  
新しいタイプの高校づくりを進めます

### 再編整備

～ 公立中学校卒業生数の減少 ～

昭和 62 年約 14 万 8 千人、平成 20 年約 7 万人

適正な規模を確保し、  
活力ある学校づくりを進めます

「全日制府立高等学校特色づくり・再編整備計画」〔平成 11 年度〕  
「府立高等学校特色づくり・再編整備計画（全体計画）」〔平成 15 年度〕

### 特色づくり・再編整備計画の経緯

- ・平成 11 年 4 月 「教育改革プログラム」の策定
- ・平成 11 年 11 月 「全日制府立高等学校特色づくり・再編整備計画」策定  
\* 第 1 次実施対象校決定以降 13 年度第 3 年次実施対象校まで決定
- ・平成 14 年 5 月 学教審答申「今後の後期中等教育のあり方について」
- ・平成 15 年 5 月 学教審答申「今後の府立工業高校のあり方について」
- ・平成 15 年 11 月 「府立高等学校特色づくり・再編整備計画(全体計画)」策定  
\* 平成 15 年度（第 1 年次）実施対象校決定 以降、順次実施
- ・平成 19 年 11 月 平成 19 年度(第 5 年次)実施対象校の決定

平成 11 年度  
155 校（全日制）+  
30 校（定時制・通信制）

普通科	117 校
専門学科併置	19 校
総合学科	3 校
専門高校	16 校

定時制	29 校
通信制	1 校



平成 20 年度  
138 校（昼間の学校）+  
16 校（夜間定時制・通信制）  
<平成 19 年度最終計画実施後>

普通科	73 校
普通科総合選択制 専門学科併置	19 校 11 校
総合学科	10 校
全日制普通科単位制	4 校
専門高校	15 校
多部制単位制 (クリエイティブスクール)	6 校

夜間定時制	15 校
通信制	1 校

## 主な成果

特色づくりと教育環境の整備に取り組んだ結果、中学生の高校進学の見込みが拡大し、「入りたい学校」という観点で進路選択をすることができるようになった。また、目的意識をもって入学し、生き生きと学ぶ生徒が増え、高校が活性化し学校の教育力も向上した。

### 【中学生の進路選択の充実と拡大】

- \* 「入りたい学校」という観点での進路選択
- \* 各校の「特色」を踏まえた高校選択を促す進路指導の推進

### 【学習指導の充実】

- \* 特色ある教育内容により、生徒の興味・関心が深まり目的意識が向上

### 【学校の活性化】

- \* 適正規模・適正配置のもと学校行事や部活動の活性化
- \* ガイダンス等の充実により中退者数の減少

### 【学校の授業力・教育力の向上】

- \* 授業の研究・開発など授業力を高める取組み

### 【施設・設備面の教育環境の整備】

- \* 様々な教育活動の展開に対応した施設・設備の整備

### 【「特色づくり・再編整備計画」の実施による府立高校全体への影響】

- \* 特色づくり・再編整備と各学校の特色ある取組みの展開により、府立高校全体が活性化
- \* 府立高校全体の特色づくりが進むとともに高校から中学校への情報提供の活発化

中学校では「入りたい学校」を選択させる進路指導が実施され、生徒は学習内容を考えて受験校を選択するようになった。  
(「進路指導担当者意見交換会」より)

総合学科をはじめ改革校ができたことは、改革校以外の学校での特色づくりの推進により影響を与えた。「学校の魅力」や「学校の特色」ということを改めて見直す機会を得た。  
(「府立高等学校長からの意見」より)

## 主な課題

「府立高等学校特色づくり・再編整備計画」は順調に進み、定着しつつある。特色づくりの定着・発展のために、広報活動を継続し的確な情報発信に努めるとともに、改革校に対しては、学校タイプ別に状況を見極めながら、引き続き、支援と指導・助言を行う。また、入学者選抜制度についての研究や、府立高校全体の活性化に向けた取組みが必要である。

### 【特色づくりの定着・発展に向けての支援と指導・助言】

- \* 今後、各タイプの理念と特色に基づき、引き続き支援・指導及び助言を行う必要
- \* 多様な科目や特色ある科目の充実に向けて研究が必要

### 【広報活動の継続・工夫】

- \* 各校の特色ある取組みの違いなど、情報発信してさらに工夫した広報活動が必要

### 【制度の定着】

- \* 「特色づくり・再編整備計画」の実施、入学者選抜方法の改善及び通学区域の改正の後、これらの定着状況や推移を見定めながら、適切に対応していくことが必要

### 【特色づくり・再編整備計画の成果の共有化】

- \* 「特色づくり・再編整備」の成果が府立高校全体に共有化され、活性化が図られるよう、さらに取組みを進めることが必要

新しい学科や高校についての情報提供を、わかりやすく適切な形で実施してほしい。  
(「『府立高等学校特色づくり・再編整備計画』中学校等アンケート」より)

## 検証のプロセス

「改革校」の現状 ～「中間まとめ」～

入学者選抜の状況  
学校生活の状況  
進路の状況  
生徒満足度

教育関係者からの意見聴取

府内公立中学校 463 校などにアンケート調査実施  
市町村教育委員会との意見交換会実施  
公立中学校進路指導担当者との意見交換会実施  
府立高等学校長からの意見・要望等聴取

## 1、総合学科高校

### 【これまでに開校した学校】

平成13年度：枚岡樟風

平成14年度：芦間 堺東

平成15年度：八尾北 平成16年度：貝塚

平成19年度：千里青雲

### 理念及び特色

#### (1) 設置理念

普通科目と専門科目の両方にわたって、多くの選択科目を設定し、生徒自ら科目選択をしていく中で、自分の適性や進路を見つめていく力をはぐくむ学校として「総合学科」を設置する。

(全体計画)

#### (2) 特色

普通科目と専門科目にわたる多様な科目の設定

多様な選択科目を設置し、選択の目安としての「系列」を設定

総合学科における原則履修科目「産業社会と人間」を中心とするキャリア教育の充実

### 進行状況

#### 【入学者選抜状況】

平均志願倍率 1.46倍(平成19年度入学者選抜): 能勢高校(中高一貫選抜校)除く  
総合学科入学者の平均男女比率 男子約3割、女子約7割

#### 【特色ある教育活動】

設置系列は、4～5系列

設置科目数の平均は156.2科目

・普通教科 88.8科目、専門教科 44.0科目、学校設定教科 23.4科目

#### 【学校の活性化】

「産業社会と人間」を中心としたキャリア教育の充実

・1年次の原則履修科目「産業社会と人間」

将来の自分の進路を考えるための様々な体験活動やガイダンス、自己・他者理解を目的とした取組みや自己表現力や情報活用能力を高めるためのディベート、テーマ学習、発表会を実施。

・2年次以降は「総合的な学習の時間」等で、「産業社会と人間」を踏まえた内容を実施  
改革後、部活動加入率が上昇した学校が多い。また、中退率は下がった学校が多い。  
進路未定者を含む「その他」の率が減少

様々な教育活動で実施しているガイダンスなどが有効に機能していると考えられる。

#### 【生徒アンケート】

「総合学科高校で学んでよかった」の肯定的回答は86.8%。

・総合学科の多様な取組みを通して、「自分で考える力や自主性を伸ばすことができた」  
「コミュニケーション能力がついた」と感じている。

目的意識のある生徒のニーズ、生徒の興味・関心に対応している。  
総合学科に進学した生徒が以前より生き生きとしており、学校として活性化している。  
(『府立高等学校特色づくり・再編整備計画』中学校等アンケートより)

## 成 果

《系列》総合学科では、「食と生命を科学する」系列、「自然科学とテクノロジー」系列、「理数」系列、「国際コミュニケーション」系列、「自己を表現する」系列、「健康」系列など、体系的や専門性等において相互に関連する総合選択科目をまとめた系列を設置している。総合学科高校に進学したことにより、生徒は、系列を科目選択の目安として、専門教科と普通教科の両方にわたって設定された多くの科目から、自らの興味・関心や進路希望により科目選択をしていく中で、自分の適性や進路を見つめていく力を育てている。

《学校生活》系列・選択科目の設置による多様な教育内容の提供が、生徒の興味・関心・目的意識を深めることに役立っている。また、総合学科への改編により、多くの学校で部活動や学校行事が活性化した。生徒アンケートでは、「総合学科で学んでよかった」「科目選択については選びたい科目を選べた」という質問について8割以上の生徒が肯定的に回答しているなど、全般的に生徒の満足度は高い。

《キャリア教育》科目選択時に適切なサポート等をするため、各総合学科高校において個々の生徒の興味・関心や進路希望を踏まえたキャリア教育の推進、ガイダンス機能の充実が進んでいる。さらに、総合学科の原則履修科目「産業社会と人間」や「課題研究」等が効果的に活用され、生徒のコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力などを高める教育活動が充実した。

《進路状況》卒業後の進路については、改革後、未定者を含む「その他」が半減した。

総合学科高校における進路選択の状況

年度	学校名	卒業生数	大学	短期大学	専門学校等	就職	その他
平成 14 年度 (改革前)	玉川、食品産業 守口、守口北、 堺東、八尾北 貝塚	1,428 人	23.9% (342 人)		19.5% (278 人)	17.6% (251 人)	39.0% (557 人)
平成 18 年度 (改革後)	枚岡樟風、 芦間、 堺東、八尾北 貝塚	1,151 人	28.1% (323 人)	13.7% (158 人)	25.5% (293 人)	16.4% (189 人)	16.3% (188 人)

中学校 3 年生の段階では自分の進路・適性等を考え、選択することは難しい。総合学科の特色を理解せず、選抜の時期や学校名だけで選択した生徒も少なくない。(『府立高等学校特色づくり・再編整備計画』中学校等アンケートより)

## 課 題

《広報》総合学科の概要についての周知は進んでいるが、中学校等アンケートによると、総合学科の科目選択の状況や卒業生の進路状況等について情報提供を望む意見もある。広報活動は今後も継続し、広報内容のさらなる工夫にも取り組む必要がある。

《選抜制度》総合学科の選抜について、「早く決めたいという理由で前期選抜校を選ぶ生徒がいる」などの意見もあり、中学校での進路指導との連携が必要である。

## 2、普通科総合選択制高校

### 【これまでに開校した学校】

平成 13 年度：福井 門真なみはや  
平成 14 年度：八尾翠翔 日根野  
平成 15 年度：豊島 西成 成美  
平成 16 年度：大正 枚方なぎさ  
                  かわち野 金剛 伯太  
平成 18 年度：緑風冠\*  
平成 19 年度：北摂つばさ\*  
\* 卒業生は平成 20 年度以降

### 理念及び特色

#### (1) 設置理念

普通科の中で選択科目を多く設定し、基礎学力を重視しながら生徒一人ひとりの興味・関心にあった学習を通じて、進路実現の力をはぐくむ学校として「普通科総合選択制」を設置する。

(全体計画)

#### (2) 特色

基礎学力の充実

「エリア」の設置による、興味・関心にあった学習の展開

多様なエリア指定科目・自由選択科目の開設

進路実現の力の育成

### 進 行 状 況

#### 【入学者選抜状況】

改革後、多くの学校で志願倍率は上昇

前期選抜に移行した平成 17 年度以降は 1.6 倍前後で推移

#### 【特色ある教育活動】

設置エリアは 5 ~ 6 エリア

エリア指定科目 ( 8 ~ 12 単位 ) は 24 ~ 51 科目を設置

自由選択科目は 47 ~ 97 科目 ( 平均 70 科目 )

うち学校設定科目は 18 ~ 60 科目 ( 平均 35 科目 ) を設置

・ 専門科目を 10 科目以上設置している学校は 3 校

・ 平均開講率は 85%

#### 【学校の活性化】

体育祭の応援団への参加増等、学校行事は活性化

ほとんどの学校で、改革後、部活動加入率は 10 数ポイント上昇

中退者は改革後、1 ポイント強、減少

卒業後の進路選択の状況は、未定者を含む「その他」の半減が特徴的

#### 【生徒アンケート】

「普通科総合選択制で学んでよかった」の肯定的回答は 76.4%、全般的に生徒の満足度は高い。

## 成 果

《エリア・自由選択科目》大阪府独自の制度である「普通科総合選択制高校」における、「保育・福祉」「スポーツ」「理数科学」「人文」「国際」等のエリアと自由選択科目の設置による多様な教育内容の提供が、生徒の興味・関心・目的意識を深めることに役立っている。

《学校生活》普通科総合選択制への改編により、生徒の興味・関心にあったエリア・自由選択科目が設置され、多様な学びが可能となったことなどから、多くの学校で学校行事や部活動が活性化し、中退率が下がった。生徒アンケートでは、「普通科総合選択制の高等学校で学んでよかった」という設問の肯定的回答が76.4%となっているなど、全般的に生徒の満足度は高い。

《キャリア教育》エリア選択・自由選択科目選択へのサポートの必要性から、ガイダンス機能が充実し、また、将来の職業や生き方・あり方を考えさせるキャリア教育が促進された。

《進路状況》卒業後の進路は、改革後、未定者を含む「その他」が各校平均で半減した。

普通科総合選択制高校における進路選択の状況

《データの対象校》 福井・門真なみはや・八尾翠翔・日根野

	年度	卒業生数	大学	短期大学	専門学校等	就職	その他
改革前	平成9年度	1675人	14.7% (246人)	22.4% (376人)	24.8% (415人)	20.7% (347人)	17.4% (291人)
	平成10年度	1564人	17.5% (273人)	17.8% (279人)	29.5% (462人)	18.4% (288人)	16.8% (262人)
改革後	平成16年度	941人	27.1% (255人)	19.3% (182人)	31.2% (294人)	10.9% (103人)	11.4% (107人)
	平成17年度	936人	33.3% (312人)	16.7% (156人)	31.4% (294人)	9.3% (87人)	9.3% (87人)
	平成18年度	945人	37.8% (357人)	18.1% (171人)	27.9% (264人)	8.1% (77人)	8.0% (76人)

生徒状況に対応して、教育相談体制の充実・強化のための様々な措置や、これまでの人的配置継続が必要である。（『府立高等学校長からの意見』より）

## 課 題

《特色ある科目》多様な科目、特色ある科目の運営・充実のために、普通科総合選択制に対する人的措置、特色ある科目を担当する教員の配置に加え、「カリキュラム NAVi プラザ」などを活用した、特色ある科目にかかわる研究会・研修会・交流会などの企画、特色ある科目の教材の蓄積・発信・活用などの支援策について、研究・検討が必要である。

《ガイダンス》エリア選択・科目選択をサポートするために、高校におけるガイダンス機能やキャリア教育が促進されたが、情報提供・個別相談・助言などのガイダンス機能の一層の充実が求められている。

《広報》中学校等アンケートによると、普通科総合選択制の概要についての周知は進んでいるが、教育内容の詳細については、「普通科や総合学科との違いがわかりにくい」などの意見もある。広報活動を今後も継続し、広報内容のさらなる工夫にも取り組む必要がある。

《選抜制度》普通科総合選択制の選抜に関する、「後期選抜の高校選択肢が少ない」「早く決めたいという理由で前期選抜校を選ぶ生徒がいる」などの意見をも踏まえて、選抜について研究する必要がある。

普通科総合選択制各校の特色の違いが明確でない。卒業した生徒のその後の進路や活躍・実績の検証、情報提供が必要である。（『府立高等学校特色づくり・再編整備計画』中学校等アンケートより）

## 3、工科高校

### 【これまでに開校した学校】

平成 17 年度：西野田工科、淀川工科、今宮工科  
茨木工科、城東工科、布施工科  
藤井寺工科、堺工科、佐野工科  
卒業生は全て平成 19 年度から

### 理念及び特色

#### (1) 設置理念

産業構造の変化や技術の複合化などに柔軟に対応できる幅広い知識や技術の基礎・基本を備えた将来のスペシャリストとなる人材育成をめざし、専門分野の深化と、高度な専門性を身につけるための高等教育機関への接続という2つの方向性を基本として、教育内容の充実を図るとともに、再編整備を実施する。（全体計画）

#### (2) 特色

専門分野の〔深化〕と高度な専門性を身に付けるための高等教育機関への〔接続〕  
学科ごとの募集から総合募集へ

1年生で工業の基礎知識を学び、2年生からの系・専科で専門分野を幅広く学ぶとともに知識・技術・技能の深化を図る。

### 進行状況

#### 【入学者選抜状況】

工科高校全体の入学志願者選抜の志願倍率は、平成 19 年度まで概ね 1.2 倍

#### 【特色ある教育活動】

総合募集と系・専科の選択

- ・ 1年生で基礎的内容を学び、2年生から系・専科を選択して専門的内容を深める。
- ・ アンケート結果では、系・専科選択の説明について「よくわかった」「だいたいわかった」あわせて 70% 程度の回答。

〔深化〕と〔接続〕の取組み

- ・ 〔深化〕と〔接続〕に対応した教育課程の設定
- ・ 高等教育機関への進学希望者の進路実現の支援
  - 放課後や長期休業中の講習や補習による学力の向上の支援
- ・ 新しい工業技術を身につけることの支援やその効果の発信
  - 技術や技能の資格取得への積極的取り組み、また奨励や表彰の実施
  - コンテストや全国規模の大会・コンクールへの参加

#### 【学校生活の状況】

部活動の加入率は、平成 16 年度から平成 18 年度まで、50% 程度を推移している。

中途退学の状況は、平成 16 年度から平成 18 年度まで、8% 前後を推移している。（1年生）



## 成 果

《生徒ニーズ》〔総合募集〕の実施により、入学時点では、工業の細かな専門課程を決めず、1年生で幅広く工業技術の基礎・基本を学ぶとともに、きめ細かな専門課程に対するガイダンスをもとに、2年生からの専門学科（系・専科）を選択することができるようになったため、「生徒の興味・関心、適性、進路希望に沿える体制が整った」と中学校からも支持がある。

《専門教育の深化》系・専科に対応した施設や機器などを整備するとともに教員に対するスキルアップ研修の実施により、新しい工業技術教育が進んだ。更に、資格取得や技能審査合格にも積極的に取り組むとともに、各種大会やコンテスト等でも技術の成果を現すようになった。

《高等教育機関への接続》大学等への進学希望者に対応した教育課程を編成するとともに進学希望者に対する講習会等を開催したり、工科高生対象の大学工学部推薦枠の獲得などにより、〔接続〕の取り組みが大きく進んだ。

《大学・企業との連携》大学生のインターンシップ受け入れやものづくり企業における人材を活用しての技術指導講習会の実施など、大学や企業との連携を深めている。また、これまでの大学との連携の取り組みを発展させ、進学後も含めての学びの支援やものづくり人材育成の観点からの相互連携を積極的に進めている。

「入試の段階では細かな興味・関心、適性が分からない生徒が多いので、入学して1年間、工業に関する基礎学習を受けた後、2年生で学科を選択するのはとてもよい。」や「1年生で、幅広く工業の基礎的な知識が得られるのでよい。」など総合募集を肯定的に受けとめている意見がある。（『府立高等学校特色づくり・再編整備計画』中学校等アンケートより）

「技術立国の日本として技術者を育てることは重要である。将来のより高度な学習につながる教育の場としての役割もある。」「専門分野を身につけるため、より高度な充実した設備、教育内容を望みたい。」「中学校の教員が「工科高校」の内容をよく理解できていない現状である。教員に向けた資料説明が欲しい。」「前期で合格するなら工科高校でもいい」と考える生徒も少なくない。」などの意見があるように、特色の更なる充実とともに広報活動の重要性がうかがわれる。（『府立高等学校特色づくり・再編整備計画』中学校等アンケートより）

## 課 題

《特色》「総合募集」や〔深化〕と〔接続〕という特色を活かした教育内容を、更に発展させることが重要である。

《広報》ものづくりに興味・関心のある生徒が、目的意識をもって入学するように、工科高校の教育システムやその取り組み状況、成果について、中学生や保護者などの立場に立った、分かりやすく理解しやすい広報活動の継続が重要である。

《高大連携》高等教育機関への進学者の支援や工科高校の学びの深化を図るため、大学理工学部と教育課程に関わる連携など、新たな連携が望まれる。

## 4、多部制単位制高校 （クリエイティブスクール）

### 【これまでに開校した学校】

平成 15 年度：[普通科] 咲洲

平成 17 年度：[普通科] 箕面東\* 桃谷\*

[総合学科] 成城\* 東住吉総合\* 和泉総合\*

\* 卒業生は平成 19 年度から

### 理念及び特色

#### (1) 設置理念

生徒自ら学ぶ科目や時間帯を選択することにより目的意識を養い、進路目標に応じた多様な学習が可能となるよう、単位制で昼間の定時制のシステムを活用した、新しいタイプの学校として設置する。(全体計画)

#### (2) 特色

多様な生徒のニーズに対応した多様な学びの提供

自分の生活スタイルに合わせて学ぶ時間帯を選択

自分のペースに合わせて三修制または四修制を選択

三修制(3年間で卒業を予定するカリキュラムのこと)

四修制(4年間で卒業を予定するカリキュラムのこと)

#### (3) 教育システム

部(午前部)、部(午後部)など異なる時間帯に教育課程を設け、生徒は所属する部と他の部の教科・科目を履修することによって、学校の授業だけで3年で卒業できるシステムとする。

生徒が自らの進路や適性、興味・関心に基づいた系統的な選択ができるよう、内容的に相互に関連する科目群(普通科では「ワールド」、総合学科では「系列」)を複数設ける。

多様な教育課程を編成できるよう、二学期制で運営する。

多部制、単位制を活用することで、生徒は自分の生活スタイルにあった授業時間帯を選択し、進路や興味・関心に合わせた時間割をつくることができる。

### 進行状況

#### 【入学者選抜の状況】

開校3年間、部 部とも平均志願倍率は1.2倍前後。

#### 【特色ある教育活動】

設置科目数は6校平均120科目程度。

学校外における学修に係る単位認定や高等学校卒業程度認定試験合格科目等の単位認定を実施。

土曜開講を実施。

#### 【学校生活の状況】

ほとんどの生徒が入学時に三修制を希望。

1年次生の部活動加入率は部4割程度、部1割未満。

中退率(平成18年度)は部11.7%、部22.8%。

#### 【生徒アンケート】

部では、「多様な科目選択ができる」、部では「学ぶ時間帯が選べる」を志望理由として挙げている生徒が多い。

「入学して満足していますか」や「進学した部に満足していますか」の肯定的回答は部、部とも70%を超えている。

成 果

《教育システム》生徒アンケートでは、志願理由として、部では「多様な科目選択ができる」、部では「学ぶ時間帯が選べる」が上位となっており、多部制単位制の特色ある教育システムにより選択している。

《多様な学び》「ワールド」や「系列」における実習・実技・観察等の体験的な学習等、特色ある選択科目や多様な科目の設置、土曜開講の実施などの多様な学びが、生徒の学習意欲を高めている。

《学校生活》多様な生徒に対して、少人数指導やきめ細かい教育相談など適切な指導を行っている。生徒アンケートでは、「入学して満足していますか」の問に対する肯定的回答は70%台である。また、中学時代に不登校だった生徒が自分のペースや自信を取り戻して生活している状況がある。

《教育活動》地域のイベントへの参加、「夏休み子ども工作教室」等ものづくり講座の実施、清掃活動及び地域の企業の協力を得て就業体験を実施するなど、様々な取組みを通して地域との連携を深めることにより、生徒に活躍の場を与えている。

目的意識を持つ生徒には極めて有意義と考える。進路選択の幅が増えてありがたく思う。  
（『府立高等学校特色づくり・再編整備計画』中学校等アンケートより）

多部制単位制高校では、多様な選択科目、資格取得、インターンシップなど多様な学びの提供や少人数授業などきめ細かい単位修得支援の取組みが特色となっている。  
（『府立高等学校長からの意見』より）

課 題

《教科指導》多様な学力の生徒に対して、少人数指導や習熟度別学習などのきめ細かな指導など様々な取り組みへの継続的な支援が必要である。

《生徒指導》多様な生徒に対して、教育相談やカウンセリング指導など、生徒の自己実現や学校定着を図るための様々な取り組みへの継続的な支援が必要である。

《広報》多部制単位制が、多様な学びの場であり、学ぶ時間帯や学ぶペースも選択できるという特色があることや、「昼間の高等学校」の定時制の課程であることなど、特色ある教育システムを中学校の教員や保護者に一層周知する必要がある。

《システム》部の授業時間の設定により、部活動や諸会議の時間の確保が難しいなどの課題があり、生徒の状況を見極めながら引き続き工夫する必要がある。

生徒状況に対応して、教育相談体制の充実・強化のための様々な措置や、これまでの人的配置継続が必要である。（『府立高等学校長からの意見』より）

学校説明会（在校生のなまの声や映像等）の開催や、わかりやすい情報（従来の定時制との違い、メリット、生徒支援、選択、時間割等）がほしい。（『府立高等学校特色づくり・再編整備計画』中学校等アンケートより）

## 5、夜間定時制の課程

【これまでに開校した学校】 平成 17 年度再配置

[普通科] 桜塚 春日丘 大手前 寝屋川  
布施 三国丘 桃谷#

[総合学科] 茨木工科 西野田工科 今宮工科  
藤井寺工科 堺工科 佐野工科  
成城# 和泉総合#

# ... 多部制単位制 部 卒業生は全て平成 19 年度から

### 理念及び特色

#### (1) 設置理念

新しい夜間定時制の課程は、昼間に働きながら高校に入学を希望する生徒の他、様々な目的や事情により夜間に就学することを希望する生徒など、夜間という条件の中で目的意識を持って学習する生徒の就学の場として、教育内容の充実を図る。(全体計画)

#### (2) 特色

単位制を導入し、単位修得を支援する。

多様な選択科目を開設し、学習意欲や関心を高める。

ガイダンス機能やカウンセリング機能の充実を図る。

### 進行状況

#### 【入学者選抜状況】

進学を希望する生徒を十分に受け入れることができる状況。

(平成 19 年度平均志願倍率 0.73)

入学者の男女比率は、普通科ではほぼ同数、総合学科は女子が 24.2%。

総合学科(平成 16 年度まで工業科)で女子の割合が増加。

#### 【特色ある教育活動】

生徒の学習意欲や関心を高め、単位修得を支援するためにゼロ時限目授業(始業時間前授業)、土曜開講を実施。

様々な学校外の学修に係る単位認定を実施。

科目選択におけるガイダンス機能の充実。

#### 【学校生活の状況】

定時制専用教室や保健室、相談室等の施設の整備及びハートケア・サポーターの配置などの活用によりカウンセリング機能を強化。

1 年次生の中退率は減少。

## 【ゼロ時限目授業実施状況】

	科目数	受講登録者数	単位修得率
平成 17 年度	70 科目	749 人	33.3%
平成 18 年度	70 科目	829 人	37.9%
平成 19 年度	75 科目	895 人	

## 【土曜開講実施状況】

	実施校数	科目数	募集人数 (人)	受講登録者数(人)				単位 修得率
				自校生	他校生	社会人	合計	
平成 17 年度	9	39	732	348	11	125	484	42.0%
平成 18 年度	18	66	1,141	581	9	130	720	42.8%
平成 19 年度	18	63	1,420	776	9	131	916	

働きながら学ぶだけでなく、他の理由で夜間定時制を選択する生徒があり、存在意義は大きい。  
 (『府立高等学校特色づくり・再編整備計画』中学校等アンケートより)

## 成 果

《生徒のニーズ》働きながら学ぶ必要がある生徒の他、様々な目的や事情により夜間に就学することを希望する生徒などの就学の場となっている。

《多様な学び》教科・科目の習熟度に応じた科目を設置し、生徒一人ひとりの個に応じた学びを提供している。また、資格取得をめざす科目、ものづくりを行う科目、校外での調査研究を実施する科目などの多様な科目を設置することで、生徒の興味・関心を深めたり、資格取得に役立っている。

《単位修得の支援》生徒は定時の授業以外に、定通併修制度、ゼロ時限目授業や土曜開講、学校外の学修や資格取得、高等学校卒業程度認定試験などの様々な制度を活用することで、柔軟な単位の修得に役立っている。

夜間定時制の課程は、いわゆるリカレントスクールとしての存在意義は大きい。(「府立高等学校長からの意見」より)

## 課 題

《教育システム》設置理念に基づき、各校の生徒の状況に応じて、単位制・二学期制のシステムを活用し、前期後期ごとの単位認定をはじめとする教育課程の工夫や学校生活を一層充実させる取り組みが必要である。

《教育相談・ガイダンス》中学時代に不登校を経験するなど様々な課題のある生徒に対して、ハートケア・サポーターを活用したり教育相談体制を整えたりしてきめ細かな指導を行っているが、継続的な支援が必要である。

《広報》再配置に伴う単位制の導入や総合学科への改編などの新しい取り組みについて、十分に理解されていない状況から中学校教員や保護者に周知する必要がある。

## 6、国際・科学高校

### 【これまでに開校した学校】

平成 17 年度：千里 住吉 泉北  
卒業生は全て平成 19 年度から

### 理念及び特色

#### (1) 設置理念

国際化、情報化の進展に対応し、コミュニケーションツールとして外国語と情報機器を活用し、豊かな国際感覚や確かな国際理解の下に、科学技術、経済、文化等の分野において、グローバルに活躍できる人材の基礎となる資質・能力の育成をめざすため、海外との交流や、実験・実習を重視した授業展開などに特色を有する新たな専門高校として「国際・科学高校」を設置する。(全体計画)

#### (2) 特色

科学分野での実験・実習や語学分野での体験学習など、観て、聴いて、感じることを重視した教育を推進する。

英語・情報機器を活用したコミュニケーション能力の育成を図ることとし、教科学習においても、英語の積極的な活用を図る。

プレゼンテーションの手法を授業に積極的に取り入れ、意見を発表し、説明する能力の育成を図る。

自国の文化とともに世界の国々の文化や歴史を理解し、多様性を尊重する国際理解教育を推進する。

海外からの留学生を積極的に受け入れるとともに、海外への留学、語学研修、海外修学旅行など、海外における学習機会を充実する。

大学、研究機関などと連携した先進的な学習を推進する。

科学教育、語学・国際理解教育の取組みの成果を、府立高校全体に発信する。

### 進行状況

#### 【入学者選抜状況】

平成 19 年度平均志願倍率 国際文化科 1.70 倍、 総合科学科 1.76 倍

#### 【特色ある教育活動】

国際文化科では週平均 20 時間程度 CALL システムを活用した授業を実施。英語及び、英語以外の外国語講座(フランス語、スペイン語、中国語、韓国・朝鮮語など)も選択科目として開講し、多くの生徒が選択。

総合科学科では、生徒全員が器具や対象物に実際に触れ観察する体験を重視し、「理数物理」・「理数化学」・「理数生物」・「科学探究基礎」において少人数展開授業を実施。最先端の実験・実習機器を含む理科の実験室が整備され、授業時間数のうち約 4 割を実験・実習に当てている。国際・科学高校では、訪問する国等の事前学習から、海外の現地校との交流や施設見学、日本とは異なる自然や環境の中での調査学習や観察・実験などを経て、帰国後の調査成果の発表までを一連の学習とした「海外スタディーツアー」を実施。

国際・科学高校へはニーズがあって、改編して良かったのでは。

(「市町村教育委員会意見交換会」の意見より)

## 成果

《生徒のニーズ》語学分野や科学分野に深く興味・関心を持ち、目的意識を持って選択している生徒が入学している。

《教育活動》実習や実験等の時間を多く取って実際に体験・経験させることにより、学習活動の深化・定着を図り、生徒の進路希望の実現に対応している。

平成 18 年度学校状況調査について(生徒アンケートより：国際・科学全体)

### CALLシステムの活用状況について

	よくあてはまる	どちらともいえない	あてはまらない
英語の学習に積極的に取り組むようになった	115 35.2%	142 43.4%	70 21.4%
英語のコミュニケーション能力が高まった	135 41.2%	150 45.7%	43 13.1%
英語の学力が向上した	84 25.7%	178 54.4%	65 19.9%
プレゼンテーション能力が身についた	87 26.5%	160 48.8%	81 24.7%
英語の学習内容に興味が高まった	140 42.9%	132 40.45%	54 16.6%
英語に関する検定試験を受検した。または、しようと思っている	132 40.4%	106 32.4%	89 27.2%
英語の学習について量が多く速度も速くついていけない	100 30.6%	156 47.7%	71 21.7%

中学校段階で、英語(語学、外国)や科学(理数系)に深く関心を持っている生徒が多くいる。生徒は自分の興味・関心に従って国際・科学高校を選択している。国際・科学高校は特色・目的が明確であり、目的意識を有した生徒には有効な高校である。(『府立高等学校特色づくり・再編整備計画』中学校等アンケートより)

改革が進み様々なタイプの学校が出来たことはよかったが、それぞれの特色や内容が十分に理解できるところまで行っていない。中学校や保護者に浸透させるための継続的な説明や広報活動が必要。また、中学校から地理的に遠い学校の情報が入りにくいということもある。

(「市町村教育委員会意見交換会」の意見より)

国際文化科と国際教養科、英語科との違い、総合科学科と理数科との違い等がわかりにくい。特色や「国際交流」等の取組みが理解されていない。(『府立高等学校特色づくり・再編整備計画』中学校等アンケートより)

## 課題

《広報》国際文化科、総合科学科の理念・特色や国際教養科、理数科との違いがわかりにくいという意見がある。国際文化科と総合科学科の理念や特色ある教育活動、海外との交流の取組みなどについて、中学校や中学生・保護者にさらに周知を図る必要がある。

## 7、全日制普通科単位制高校

### 【これまでに開校した学校】

平成 13 年度：長吉

平成 15 年度：槻の木

### 理念及び特色

#### (1) 設置理念

全日制の時間帯で、自分で学習計画を立て、自分にあった方法で、自らの学習ペースに応じて学力を伸ばす学校として、「全日制普通科単位制高校」を設置する。

#### (2) 特色

生徒一人ひとりが自己の学習ペースに応じて、興味・関心、能力・適性、進路希望等に基づき学習内容を選択することを通して、主体的に学習する姿勢や創造的な個性、進路実現の力をはぐくむ。

全日制単位制の趣旨や特色を生かした教育課程を編成し、基礎学力の充実を図るとともに、進路実現にも対応できる多様な選択科目を設置する。

### 進行状況

#### 【入学者選抜状況】

長吉高校の改編後の志願倍率は、年度により 1.03 倍から 1.60 倍

槻の木高校の改編後の志願倍率は、概ね 2 倍前後

#### 【特色ある教育活動】

生徒が、興味・関心、進路希望等に応じて科目選択できるように、特色ある選択科目を約 100 科目設定。

将来の進路目的達成に必要な科目を選択できるように、選択科目のシラバスを活用し、きめ細かなガイダンスを実施。

2 学期制で全科目学期毎の単位認定を実施。

進路実現の支援として、放課後や長期休業中などに、基礎学力の定着や発展的な学習などの補習や講習を実施。

学校外での学修による単位認定の制度を積極的に活用（英語検定、漢字検定、書写検定、高校卒業程度認定試験等の成果を単位認定）。また、大学での講義受講による単位認定や、インターンシップ、大学教官による出前講義などを実施している学校もある。

#### 【学校生活の状況】

ホームルーム単位での参加形態をとっている学校では、学校行事は活発。個人の自主的な活動を重視し、個人やグループのエントリーによる参加形態をとっている学校では、学校行事への参加率は高くない。



## 全日制普通科単位制【設置科目数】平均

設置科目数	共通履修科目数等	自由選択科目数	合計
平均	24	94.5	118.5

全日制普通科単位制高校では、生徒の興味・関心や進路希望に対応して、自由選択科目として平均 94.5 科目を設定している。

## 成 果

《多様な学び》柔軟な単位制のシステムを活用した前期後期ごとの単位認定や集中講座、多様な自由選択科目などの設置により、生徒の興味・関心・目的意識を深め、進路希望に対応した教育内容を提供している。

《キャリア教育》自分で学習計画を立て、自らの学習ペースに応じて学力を伸ばすために、多様な自由選択科目を選択する際には、各自の興味・関心、能力・適性、進路希望等を踏まえた適切なサポートをする必要があることなどから、キャリア教育を推進し、ガイダンス機能を充実させている。

自分の学習ペースに応じて学習できるシステムは必要。単位制高校は趣旨がわかりやすく、生徒のニーズは高い。多様な生徒のニーズに対応している。

(『府立高等学校特色づくり・再編整備計画』中学校等アンケート)より)

全日制普通科単位制の特色・目的や、普通科・総合学科・多部制単位制との違いがわかりにくい。単位制の既存の2校の特色は大きく異なっている。

(『府立高等学校特色づくり・再編整備計画』中学校等アンケート)より)

## 課 題

《広報》全日制普通科単位制の理念・特色が理解しにくいという声が聞かれる。また、柔軟な教育課程を編成することができるため、かえって不安や心配を感じる中学校からの声も聞かれる。全日制普通科単位制高校の理念や特色、各校の教育課程や教育活動等について、中学生や保護者、中学校への丁寧な広報活動が求められている。

《単位制の制度》「学習のペースを自分で決めることができる」などの理由で全日制普通科単位制に進学したが、単位制の制度をうまく活用できないため進路変更してしまう者がいるなどの課題があり、制度運用面での工夫が求められる。